



チームI
馬渡 光春 議員

▼環境対策について

Q 近年における本市の一般廃棄物（し尿を除く）の排出量と今後の推移はどのように考えているのか。

A 二十二年度実績で、家庭系と事業系ごみ合わせて、可燃物が一万七千四百二十トン、不燃物が千百十五トン、資源物が二千四十六トンであった。今後の推移については人口減少や資源化の推進により、ごみの総量は減少していくと考えている。

Q 近年における本市の一般廃棄物処理（し尿を除く）の年間経費と、一世帯及び一人当たりでは幾らになるのか。

A 二十一年度が約八億八千万円、二十二年度が約八億千万円、二十三年度が八億三千万円である。二十三年度では世帯当たりで約四万四千円、一人当たりで約一万七千円になっている。

▼舞岳山荘の活用について

Q 活用方法と利用状況はどうか。

A 保育園や幼稚園の体験農園によるサツ

マイモ植え、ジャガイモ収穫や小・中学生のキャンプ及び通学合宿、各種スポーツ大会時の宿泊施設として幅広く活用されている。二十三年度の利用実績は、市内の方が五千七百四十三人、市外の方が二千八百八十二人であり、児童・生徒が五千八百八人で、大人が二千八百七十七人となっている。

Q 今後の活用対策と課題はどのように考えているのか。

A 舞岳ふれあいロードは、木々の伐採、ベンチや木の階段を整備しており、千々石断層や有明海を望むジオスポットの一つであることから、ジオパークを活用した利用の促進を図っていきたい。

▼教育行政について

Q 市内小・中学生の携帯電話の所有状況と、情報モラルの教育の取り組みはどうなっているのか。

A 二十三年度の調査では、小学生は全体の九・四％で二百四十七人、中学生は全体の十七・五％で二百四十三人だった。県が作成した情報モラル教育指導教材及びトラブル対応マニュアルを活用し、情報モラルの教育に努めている。特に、携帯電話依存症、ネット依存症、出会い系サイトの危険性など、情報社会の影の部分の具体例を示しながら指導している。



市民の会
草野 勝義 議員

▼高齢者福祉施策について

Q 緊急通報システムについて、①概要、②対象者及び利用実績、③予算はどうなっているのか。

A ①利用者宅内であれば緊急通報ができる機器により、利用者からの緊急通報を二十四時間体制の管理センターで受け付けるものである。通報があった場合は、内容により、救急車の出動要請や、あらかじめ登録している協力者に通報するようになっていく。また、平常時でも利用者の健康状態の確認や相談に応じるとともに、毎月二回の安否確認を行っている。②六十五歳以上のひとり暮らしの高齢者が対象で、二十四年八月現在で百九十五名の登録である。③今年度は三百五十万四千円を計上しており、今後とも必要な予算は確保していきたい。

Q 高齢者への円滑な食料品提供について、市としてどのような支援が考えられるのか。

A 民間事業所においてさまざまな支援サービスを取り組みが行われており、行政としては、これらの情報を周知する取り組みが必要だと考えている。また、高齢者の方

が外出時に利用できる高齢者福祉交通機関助成事業とともに、地域の実情に即した公共交通のあり方についても検討している。

Q 介護サービスについて、どのような観点でサービスの確保を考えているのか。

A 第五期介護保険事業計画では、「ずっとこのまちで自分らしく住み続けられる地域社会をめざす」を基本理念に、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営めるよう、さまざまなサービスが提供される地域包括ケアサービスの実現を目指している。

▼全国和牛能力共進会の受け入れ態勢について

Q 民間レベルでの応援体制はどうか。

A 島原会場の運営は実行委員会が人員の配置計画が策定され、県や市、農協等の関係機関に対し、延べ五百五十人の協力要請があっている。このほかにもイベント会社で延べ四百三十一人の配置が予定されている。

【その他の質問項目】

◇労働契約法について

◇地域スポーツコミッションの考え方に

ついて

◇定住自立圏構想の考え方について

◇新学習指導要領に基づくエネルギー教育について